

令和5年度 田村支部中体連総合体育大会柔道競技要項

1 期 日 令和5年6月7(水)・・・男子団体戦
男女個人戦

8:00	開場 受付
8:20	体重測定 練習
9:00	審判監督会 保護者入場
9:30	競技開始
12:30	解散

2 場 所 小野中学校 武道場 (体育館2F)

3 競技方法

- 団体戦 (男子) 選手5名、補欠3名によるリーグ戦 1校1チーム
(女子) 選手3名、補欠3名によるリーグ戦 1校1チーム
 - 個人戦 (男子) 体重別8階級によるトーナメント法 (オープン参加)
(女子) 体重別8階級によるトーナメント法 (オープン参加)
- ※参加者が3名の階級はリーグ戦

※体重区分は次の通り

(男子)

(女子)

50kg級 (50kg以下)	40kg級 (40kg以下)
55kg級 (55kg以下)	44kg級 (40kg超44kg以下)
60kg級 (55kg超60kg以下)	48kg級 (44kg超48kg以下)
66kg級 (60kg超66kg以下)	52kg級 (48kg超52kg以下)
73kg級 (66kg超73kg以下)	57kg級 (52kg超57kg以下)
81kg級 (73kg超81kg以下)	63kg級 (57kg超63kg以下)
90kg級 (81kg超90kg以下)	70kg級 (63kg超70kg以下)
90kg超級 (90kg超)	70kg超級 (70kg超)

《試合方法》

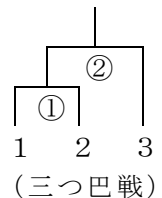
(1) 団体戦

- ① 2つのチーム間における対抗方式は、男子1チーム5人、女子1チーム3人による紅白点取り方式で行う。
- ② トーナメント戦の勝敗は、次の順によって決定する。
 - ア チーム間における勝ち数による。
 - イ アにおいて同等の場合は、内容により決定する。
 - ウ イにおいて同等の場合は、1名による代表戦により決定する。

(2) 個人戦

- ① トーナメント戦とする。(3人以下の場合はリーグ戦とする)
- ② リーグ戦の順位決定は、次の方法によって決定する。
 - ア、勝ち負けの率により決定する。
 - イ、アにおいて同等の場合は、勝ちの内容により決定する。
 - ウ、イにおいて同等の場合は、負け数とその内容により決定する。
 - エ、ウにおいて同等の場合は、再試合により決定する。

※三つ巴の場合は、トーナメント戦を行い決定する。組み合わせは抽選で行い、試合間の休憩は3分とする。



1 2 3

(三つ巴戦)

(3) 試合場は、一試合場とする。

4 競技規定

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定(2022年4月1日より施行の改正ルール)及び国内における「少年大会特別規定」並びに福島県中学校柔道大会申し合わせ事項による。※審判は2審制。開始線も付ける。
- (2) 試合時間は、団体戦・個人戦とも3分間とする。延長戦(ゴールデンスコア)は無制限とする。
- (3) 優勢勝ちの判定基準は次の通りとする。
 - ① 団体試合の個々の試合は、「技あり」以上又は「僅差(「指導」の差2以上)」とする。優劣の成り立ちは、以下の通りとし、それに満たない場合は、「引き分け」とする。

「一本」 = 「反則勝ち」 > 「技あり」 > 「僅差」

両者反則負けの場合は、両者「負け」として扱う。チーム間の内容が同等の場合は、任意の選手による代表戦を行う。(但し予選リーグにおいては、代表戦を行わず「引き分け」とする。)

代表戦の判定基準は、団体試合と同様とし、「技あり」以上又は、「僅差(「指導」の差2以上)」とする。ただし、勝敗が決しない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

延長戦(ゴールデンスコア)の判定基準は、個人試合と同様とし、「技あり」以上もしくは指導の差が出た時点で勝敗を決する。延長戦において指導の累積によって両者が同時に「反則負け」になった場合は、抽選により必ず勝敗を決する。

②個人試合は、「技あり」又は、「僅差(指導差2)以上とする。本戦において「得点差」又は「指導差2」以上がない場合は延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

延長戦(ゴールデンスコア)の判定基準は、個人試合と同様とし、「技あり」以上もしくは指導の差が出た時点で勝敗を決する。

指導の累積によって両者が同時に「反則負け」になった場合は、得点板をリセットして、延長戦(ゴールデンスコア)で勝敗を決する。また、延長戦において指導の累積によって両者が同時に「反則負け」になった場合は、抽選により必ず勝敗を決する。

- (4)柔道衣は白色とし、(公財)全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣(上衣・下穿き・帯)を着用すること。女子の黒帯は白線入りも可とする。新规定の認証柔道着について、県内は今年度から新规定『赤柶』で実施。帯は『赤柶』『青柶』どちらでも良い。

※但し、地区・支部においては、旧規定も認める。経済的理由などによる。

- (5) (財) 講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は黒帯を用いること。

- (6)ゼッケンの着用(例を参照)柔道着にゼッケン(学校名・名字入り)を縫いつけて出場すること。

①布地は白色(晒・太綾)

②名字(姓)は上側2/3

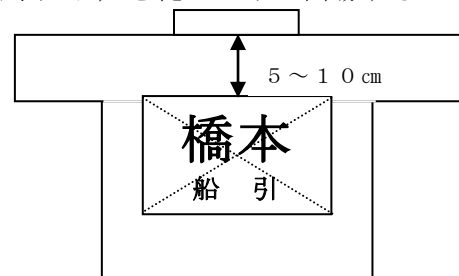
③学校名は下側1/3

④書体は太字ゴシック体・明朝体,男は黒色,女は赤色

⑤サイズは、新规定(横30~35cm・縦25~30cm)

⑥縫いつける場所は後襟から5~10cm下部に縫い付ける。

対角線にも強い糸で縫いつける。



- (7)女子は、上衣の下に白色または白に近い色の半袖で無地のTシャツ又は半袖のレオタードを着用すること。※Tシャツのマーキングについては、(公財)全日本柔道連盟が定める規定(H25.4.1より施行)に準ずる。

- (8)柔道着の上着袖、ズボン裾の空きは、10cm~15cm。ズボンにおいては、ひざの部分が10cm~15cmあれば良いとする。上着の袖は手の平を前方に向けた状態で袖口が手の甲に触れなければならない。

- (9)チームの編成は、体重の最も重いものを大将とし、以下、順次体重順に編成する。試合毎に選手的位置を変更することはできない。また選手の補充は認めない。

- (10)「試合場におけるコーチの振る舞いについて」、「脳しんとう対応について」を適用する。

安全対策(脳しんとう対応について)は以下の通りとする。

①大会1ヶ月以内に脳しんとうを受傷した者は脳神経外科の診察を受け出場の許可を得る。

②大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。(至急専門医の精査を受ける)

- (11)「少年大会特別規定」の改訂で、『両袖を持って施す投げ技の禁止』が附則例示された。両袖を持って施す技には、「袖釣込腰」「大外刈」「外巻込」の他に、「小外掛」「大内刈」が含まれる。

※一発反則負けとなる

- (12)柔道衣の乱れに対する新たな罰則(指導)の施行について

試合中に柔道衣が乱れた場合、主審の「待て」から「始め」の間に、選手自ら素早く服装を直さなければならない。乱れた柔道衣を直そうとしなければ、主審より柔道衣を直すよう指示される。これを1回目とカウントし、2回目以降は、「指導」が与えられる。帯についても同様とする。本人が緩く結ぶことが原因で解け、自ら固く結び直さず主審から指示された場合もカウントの対象となる。帯を解いて服装を直す場合は、主審の指示・許可がなければならない。

- (13)礼法の所作や動作の徹底

選手は気をつけの姿勢で静止、立礼。左から一步踏み出し自然体で止まる。手を挙げて構えてはいけない。正しい所作で静止した後、『始め』の宣言で試合を始める。

- (14)中学生の試合においては、『絞め技は禁止』とし、施した場合は、『指導』の反則を与える。
- (15)国際柔道連盟試合審判規定(2022年4月1日より施行の改正ルール)12項目を適用する。
- (16)外部コーチは、5月末までに県専門委員長宛に報告し登録された者で、学校長が認めた者。
(C級審判資格以上で65歳未満等いくつか条件がある)

5 表彰 団体戦・個人戦ともに1位、2位、3位に賞状を授与する。
(県中大会出場枠：団体戦、個人戦ともにオープン参加)

6 申し込み 参加申込書に必要事項を記入し、**5月22日(月)**の抽選会の時に提出して下さい。
尚、個人申し込みについては**5月19日(金)16:40**までに船引中 橋本にメールをお願いします。(hashimoto.makoto@fcs.ed.jp)

7 感染症対策 ①保護者各1名のみ観戦することができる。
(保護者の入場は**9:00**からとなります。)
②開会式・閉会式などの式典は行わない。
③選手は試合前に消毒・試合後は手洗いを必ず行う。

8 その他 ①体重測定・服装検査は当日の朝、専門部で測定する。
②監督は審判に準ずる服装とする。